

光害

静岡市内小学校

山本さん

「なぜ都心部では星が見えないと思う?」

理科で習った星座の話をしている弟に母が聞きました。僕は都心部に人がたくさんいて空気が汚れているからだと思っていました。でも光害だと母が教えてくれました。

それから光害について調べてみました。過じょうで不要な光が天体観測に障害をもたらしていること、生態系を混乱させていること、そしてエネルギーの浪費の一因になっていることがわかりました。

まずは天体観測への障害についてです。今のように電気がなかった時代、星はどのように見えていたんだろうと考えた時、写真はないけれど絵ならあると思いつきました。浮世絵です。星空が描かれた作品は、どれも今僕が見ている星とは違い鮮明で大きく、光っているのが良く分かります。電気がなくても、月と星だけで明るくも感じます。見え方の違いだけでも天体観測に影響を及ぼしているのが良く分かりました。

次に、生態系を混乱させていることについてです。海でウミカメラが

産卵し、ふ化した子ガメが自動販売機の明かりに向かって行ってしまい、海に戻れずに死んでしまうことがあるようです。夜行性生物はすみかに影響を受けることもあり、人間は快適に暮らしている一方で、こんな犠牲者もいたんだと知ると、胸が痛みました。

動物だけでなく、植物にも影響はあるようです。街灯に照らされた稲穂は発育が遅いそうです。逆にホウレンソウは早く花芽してしまうそうです。人の安全を守っているはずの街灯が、まさか僕たちの食べものにまで悪影響を及ぼしていることにびっくりしました。もっとびっくりしたことは、光害を阻止できるLED照明がすでに開発されていたことです。一秒間に数千回点滅をくり返して植物には照明が消えているように感じる仕組みだそうです。僕のように光害について全く知らない人がいる一方で、このような開発も進んでいて、無知な事が少し恥ずかしかったです。

最後にエネルギーの消費です。これについて、僕が学校でできる事と家で出来る事について考えました。学校でできることは、無駄な電気を消したり、学級新聞で光害のことをのせて、知らない人にも広めたりすることです。家でできる事は、僕一人で実せんしてもダメなので家族で考えました。まず誰もいない部屋はもちろん電気を消す、光があつたら便利だなという考えではなく、必要か不必要かを見極める、

夜は早く寝る、という意見が出ました。僕の家族だけでは小さな力に過ぎないけれど、持続可能な社会のためには一人一人の意識が大事だという事は学校で学んだゴミ問題や水の勉強で心に残っています。実せんすることによって、次の世代の人には、今僕が見ている星空より、もっときれいな星空が見られることを願っています。そして多くの人に光害を知ってもらうためにまず自分の周りの人から広めていきたいです。